＜研究論文／実践事例研究／研究ノート＞

「日本国際バカロレア教育研究」執筆要領

国際　太郎・△△　△△

（□□大学）（□□大学院）

〔キーワード：国際理解教育、国際バカロレア、授業研究、指導方法、発問方法〕

1. **タイトルページ**

**(1) タイトル部分**

　タイトル部分は、題目、著者、所属を記載します。

**(2) 本文部分**

　本文部分では、冒頭にキーワード5語をつけます。上記例参照。

　フォントは、日本語はMS明朝、英数字はCentury（半角）を使用します。文字サイズは、10ポイントを使用します。また、和文は1行42字×40行（1,220字）、英文は1行43字×41行（1,220字）、10ポイントを使用します。原稿の分量は、研究論文、実践事例研究ともに、和文は 8 ～12ページとします。英文は、12～16ページとします（表題、図表、参考文献等を含む）。研究ノートは、和文は 6～10 ページとします。

1. **見出しの書式**

　見出しは、章、節、項の3段階までとします。見出しはすべて文字サイズ11ポイント、ゴシック体、太字を用います。

**(1) 章の見出し**

　章の見出しは、「文献」のみセンタリング、他はすべて左寄せとします。「はじめに」と「おわりに」以外の見出しには、アラビア数字（半角）、太字として番号を付けます。

**(2) 節の見出し**

　節の見出しには、半角の両括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます。

**(3) 項の見出し**

　できるだけ見出しは、章と節の2段階にしますが、必要な場合は、項の見出しとして、1)など半括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます。

1. **注、文献および謝辞**

　注、文献および謝辞は、本文の後に一括します。

　本文中での文献の指示は、著者名・刊行年次を小括弧に入れて示します。たとえば、「…（江里口 2014；福田 2015）」，「相良・岩崎（2007）は…」のように表記します。外国人名は原語で表記します。

**(1) 注**

　注は必要最小限にとどめるものとしますが、注を付す場合、本文の該当箇所に上付きで番号を付け、文献の前にまとめて記載します。

**(2) 文献**

　文献は著者名のアルファベット順とし、番号は付けません。記載方法は、本テンプレートの「文献」の箇所を参照してください。

**(3) 謝辞**

　謝辞は論文の最後に記載します。ただし、投稿時には謝辞は付さず、採録決定後に挿入してください。

1. **図および表**

　図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。本文とは別に鮮明な原稿を作成し、本文中にその挿入箇所を指示しておきます。

　図表の幅は、両脇に余白が生じても文字を入れないようにします。

　なお本文中に、図表を縮小表示して挿入してもかまいません。その際にも、図表だけの原稿とファイルは提出してください。

　図および表には、通し番号を付し、表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に記します。なお、図および表が一つの場合にも、図1または表1と記します。図表と文章本体との間には1行の空白を設けて区別を明確にします。図および表の下部には、必ず出所を明記してください。「出所：筆者作成」のように表記します。

1. **文章表現**

　和文は、常用漢字、現代仮名遣いを用います。

　数字は、熟語・成語に含まれるもの以外は、アラビア数字（半角）を用います。

　略語は、一般的に用いられているものに限ります。まぎらわしい略語には、初出の際に原語と日本語の訳語を小括弧で示してください。

　外国人名は、通常カタカナ書きとし、初出の際に原語を小括弧で付してください。

**文献**

（例）

＜単行本の場合＞

福田誠治(2015)『国際バカロレアの大学入試改革——知を創造するアクティブ・ラーニング』亜紀書房.

（順番に、著者名、発行年、書名(二重カギ括弧)、発行所）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

（順番に、著者名、発行年、書名(イタリック体)、発行所(発行地)）

＜単行本の特定の章の場合＞

石村清則 (2007)「日本語A1の実践とキャリア意識」　相良憲昭・岩崎久美子編著『国際バカロレア－世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店，pp.166-177.

（順番に、章の著者名、発行年、章の題目(一重カギ括弧)、収録されている単行本の編者名、書名(二重カギ括弧)、発行所、掲載ページ）

Entwistle, N., McCune, V., & Walker, P. (2010). Conceptions, styles, and approaches within higher education: Analytic abstractions and everyday experience. In R. J. Sternberg, & L. F. Zhang (Eds.), *Perspectives on thinking, learning, and cognitive styles* (pp.103-136). New York: Routledge.

（順番に、章の著者名、発行年、章の題目、収録されている単行本の編者名、書名(イタリック体)、掲載ページ、発行所(発行地)）

＜雑誌論文の場合＞

花井渉 (2016)「イギリスにおける国際バカロレア認証に伴う資格試験制度に関する研究」『比較教育学研究』52，90-112.

（順番に、著者名、発行年、論文題目(一重カギ括弧)、雑誌名(二重カギ括弧)、巻(号)数、掲載ページ(ppは不要)。なお、複数の和文著者名は「・」でつなぐ）

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, *27(*6), 12-25.

（順番に、著者名、発行年、論文題目、雑誌名(イタリック体)、巻(号)数(巻数はイタリック体)、掲載ページ(ppは不要)）

＜翻訳書の場合＞

Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design (Expanded 2nd ed.)*. Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development. G・ウィギンズ，J・マクタイ (西岡加名恵訳) (2012)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法－』日本標準.

（順番に、原著者名、発行年、書名(イタリック体)、発行所(発行地)、原著者名(カナ名)、訳者名、翻訳書発行年、翻訳書名、翻訳書の発行所）

＜インターネットからの引用の場合＞

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

（順番に、著者名、ページのタイトル、URL、引用者の最新アクセス日）

英語文献の引用方法はAmerican　Psychological　Association’s Manual of Styles, 7th Editionに準拠します。